

通し番号	記入不要
------	------

分類番号	R01-77-21-17
------	--------------

幼すう期の飼料がかながわ鶏の発育に及ぼす影響

[要約] かながわ鶏に幼すう育成用飼料（クランブル）とブロイラー用前期飼料（マッシュ、クランブル）を給与し、幼すう期飼料がかながわ鶏の発育に及ぼす影響を検討した。28日齢までの発育はクランブルのブロイラー用前期飼料が優れていた。マッシュのブロイラー用前期飼料は幼すう育成用飼料より発育が劣ることから、栄養水準だけでなく、飼料の形状が幼すう期の発育に影響を及ぼすことが示唆された。

畜産技術センター・企画指導部・企画研究課

連絡先 046-238-4056

[背景・ねらい]

かながわ鶏の生産性や品質の向上を図るため、幼すう期飼料の栄養水準及び形状の違いが、発育に及ぼす影響を検討する。

[成果の内容・特徴]

- 1 試験には3種類の市販配合飼料を用い、L区：幼すう育成用飼料（クランブル）、BM区：ブロイラー用前期飼料（マッシュ）、BC区：ブロイラー用前期飼料（クランブル）にかながわ鶏ヒナを雌雄別に20羽ずつ配置した。飼料成分を表1に示した。
- 2 体重の推移を図1に示した。雄では1日齢から、雌では3日齢から試験区間に差が認められた。28日齢の体重はBC区、L区、BM区の順に重く、雄では各試験区間に、雌ではBM区とBC区間に、有意な差が認められた（ $P < 0.05$ ）。
- 3 飼料摂取量及び飼料要求率を表2に示した。飼料摂取量はBM区が最も少なく、飼料要求率は、雌雄ともにBC区が最も低い傾向にあった。
- 4 解体成績を表3に示した。腹腔内脂肪割合及び腸長は試験区間で差が認められなかった。筋胃割合はL区、BM区がBC区より有意に大きかった（ $P < 0.05$ ）。
- 5 以上の結果から、かながわ鶏の幼すう期の発育にはクランブルのブロイラー用前期飼料が優れていた。また、マッシュのブロイラー用前期飼料は幼すう育成用飼料より発育が劣ることから、栄養水準だけでなく飼料の形状も発育に影響を及ぼすことが示唆された。

[成果の活用面・留意点]

- 1 餌付けから28日齢までバタリーブルーダーで飼養し、飼料と水は自由摂取とした。

[具体的データ]

表1 供試飼料の一般成分 (表示値)

項目	L区	BM区	BC区
粗蛋白質 (%)	21.0 以上	21.5 以上	22.0 以上
粗脂肪 (%)	2.0 以上	4.0 以上	4.0 以上
粗繊維 (%)	6.0 以下	5.0 以下	5.0 以下
粗灰分 (%)	8.0 以下	7.0 以下	8.0 以下
カルシウム (%)	0.70 以上	0.70 以上	0.80 以上
リン (%)	0.55 以上	0.45 以上	0.60 以上
ME (Kcal/kg)	2,900 以上	3,090 以上	3,050 以上
形状	クランブル	マッシュ	クランブル

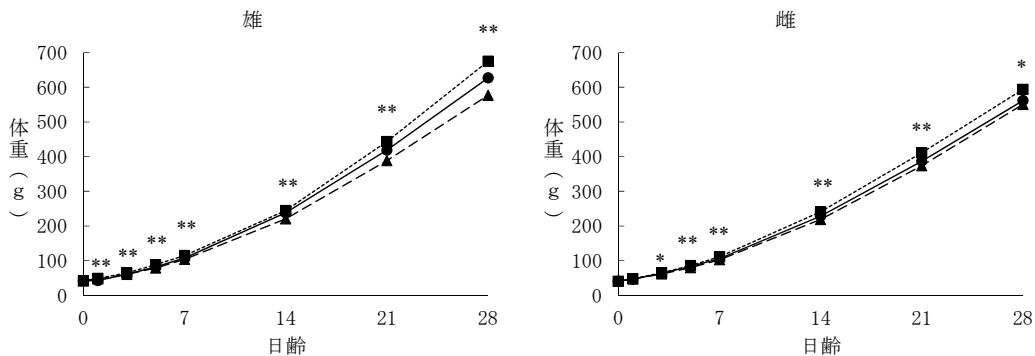


図1 体重の推移

●-L区 ▲-BM区 ■-BC区 * : $P < 0.05$, ** : $P < 0.01$

表2 飼料摂取量及び飼料要求率

項目	雄			雌		
	L区	BM区	BC区	L区	BM区	BC区
飼料摂取量 (g)	1,004	923	990	927	885	926
飼料要求率	1.72	1.72	1.56	1.78	1.74	1.67

表3 解体成績

項目	L区	BM区	BC区
雄 腹腔内脂肪割合 (%)	1.24 ± 0.15	1.34 ± 0.17	1.40 ± 0.07
筋胃割合 (%)	1.96 ± 0.08 a	2.12 ± 0.13 a	1.55 ± 0.07 b
腸長 (cm)	106 ± 2.0	104.1 ± 4.2	111.4 ± 3.7
雌 腹腔内脂肪割合 (%)	1.67 ± 0.09	1.65 ± 0.28	1.51 ± 0.09
筋胃割合 (%)	2.06 ± 0.10 a	2.26 ± 0.13 a	1.64 ± 0.09 b
腸長 (cm)	109.7 ± 2.1	104.2 ± 1.4	112.6 ± 4.2

¹平均値±標準誤差

²性別毎に同一項目内の異符号間に有意差あり (p<0.05)

[資料名] 令和元年度試験研究成績書
 [研究課題名] かながわ鶏の飼養管理技術の確立
 [研究内容名] 初期栄養管理技術の向上
 [研究期間] 平成29年度～令和2年度
 [研究者担当名] 平井久美子、引地宏二